第１章　沼田市教育行政方針評価（学校教育）

【評価について】
１　評価者（全１３１名）
　○各小中学校６名（校長・教頭・教務主任・研修主任・職員代表２名）
　○各幼稚園　３名（園長・職員代表２名）
２　評価項目
　○全５２項目（沼田市教育行政方針「基本方針１」「重点施策１」について）
３　評価方法
　○自校・園の取組について「実現度」による評価
　（４：できている　３：おおむねできている　２：あまりできていない　１：できていない）
４　評価平均について、太字は３．４以上、網掛けは３．０未満

1.「基本方針1」(教育水準の向上を目指す学校教育の充実)について

教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
		4	3	2	1
一人一人のよさを大切にし、自ら学び共に考え、心豊かでたくましく生きる子どもを育てるために、「第１１次教育水準向上研究」（第３年次）を中心に、家庭・地域との連携を図りつつ、全市をあげて教育実践に努めます。	**3.51**	50.8%	49.2%	0.0%	0.0%

考察	評価平均は3.50で昨年度とほぼ同じ高い評価である。各学校・幼稚園が「自ら学び共に考え、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」を目指し、高い意識をもちながらより充実した教育実践を行ったと言える。教職員一人一人が意識して取り組むことが大切であり、今後も、機会あるごとに学校園全体で確認していくことが望まれる。

2.「重点施策1」について

(1)学校(幼稚園)経営の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	校長(園長)のリーダーシップによる経営方針の明確化	**3.75**	75.2%	24.0%	0.8%	0.0%
イ	各主任を中心とした全校的な組織体制の確立と相談体制の充実	**3.60**	62.3%	35.4%	2.3%	0.0%
ウ	地域や学校の特性を生かした適切な教育課程の編成・実施・評価	**3.47**	46.2%	53.8%	0.0%	0.0%
エ	心の通い合う温かな学年・学級経営の推進	**3.56**	56.2%	43.8%	0.0%	0.0%
オ	学びの連続性を踏まえた幼小中連携の充実	3.24	28.5%	66.2%	5.4%	0.0%
カ	学習と生徒指導の両面から子どもを支える小学校における「教科担当制※」の充実	**3.43**	48.4%	46.9%	4.7%	0.0%
キ	地域の教育力を生かした教育活動を推進するための持続可能な校内体制の構築	**3.51**	50.8%	49.2%	0.0%	0.0%
ク	子どもを守る危機管理体制・態勢の充実	**3.56**	55.4%	44.6%	0.0%	0.0%
ケ	長時間労働という働き方の改善に向けた教職員の意識の高揚と具体的な取組の推進	2.96	17.7%	62.3%	19.2%	0.8%

考察	全９項目中７項目の評価平均が3.4以上であり、全体的に高い評価となっている。 各学校園の校長・園長がリーダーシップを発揮して明確で具体的な経営方針を示し、各主任が中心となって組織的な取組が見られた。オについて、今後、スタートカリキュラムやキャリアパスポート等をきっかけとして教育課程の連携が必要である。カは多くの学校で積極的な取組が見られ、学習面・生徒指導面で効果を上げている。また、キについては、各学校園において家庭や地域社会と連携し工夫した取組が見られ、評価平均も上昇した。課題としては、新たな人材の確保が挙げられた。ケは新規項目である。評価平均は2.96であり、「２」の割合も多い結果となった。自由記述からは、各学校園において、各分掌における校務のスリム化、行事の見直し、計画的な年休の取得、など、具体的な取組がなされている。しかし、仕事量の多さ、部活動などから、これ以上は難しいという声も多い。引き続き、より具体的な取組の推進が必要である。

（2）教職員の資質の向上

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	教職員の使命と責任への自覚を高め、指導力の向上を図る事業の充実（「沼田市・先生の日」、教科別研修会、教育水準向上研究授業研究会等）	**3.53**	54.3%	44.2%	1.6%	0.0%
イ	「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善を目指した校内(園内)研修及び自己研修の充実	**3.60**	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
ウ	「「チーム学校」という考えの下、多様な専門性をもつ人材と連携し、組織的・協働的な諸課題の解決に取り組む力の育成	**3.48**	49.2%	49.2%	1.5%	0.0%
考察	どの項目も評価平均が高く、昨年度同様に充実した取組が行われたと言える。 イでは、研修主任がリーダーシップを発揮し、特色のある校（園）内研修が進められている。一人一授業や参観ウイーク、メンター研修など、教師同士の学び合いについての工夫が見られ、資質向上につながっている。また、ミニ研修やその他の研修として、特別支援教育やプログラミング教育などを取り上げている学校も多く、より実践的な研修が進められた。ウでは、年度当初に「チーム学校」としての人材活用を位置付けることで、見通しをもって活用できたという学校もあった。					

（3）確かな学力の向上

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、それを偏りなく伸ばすことができる単元の指導計画の重視	3.30	30.5%	68.6%	0.8%	0.0%
イ	授業のめあての明示と振り返りの時間の確実な実施に併せて、それらをつなぐための学習活動の精選	**3.54**	54.2%	44.9%	0.8%	0.0%
ウ	問題解決的な学習展開の中に、社会や生活とのつながりを持たせた視点を明確にした指導の工夫	3.24	25.4%	72.9%	1.7%	0.0%
エ	新たな英語教育の在り方を踏まえ、小学校から中学校への学びの連続性を意識した、外国語活動及び英語科授業の推進	**3.44**	45.1%	53.1%	1.8%	0.0%
オ	学力検査等の分析や日常の的確な実態把握の下、各教科における個に応じたきめ細かな指導の充実と計画的な「振り返り学習※」の実施	**3.45**	45.8%	53.4%	0.8%	0.0%
カ	家庭学習の仕方が分かり習慣化するための指導の工夫	3.28	31.4%	64.4%	4.2%	0.0%
考察	今年度、単元の指導計画について重視してきた。校内研修で取り上げた学校も多く、単元を通して、何を身に付けるのか、どのように学んでいくかについて研修を進めることができた。イのめあてと振り返りの確実な実施、学習内容の精選とも関連して、今後も授業改善を進める上で大切にしたい視点である。ウについては、カリキュラムマネジメントの視点から計画を見直したり、指導の工夫を図ったりするなど、より改善を図る必要がある。エでは、外国語活動や英語科授業について充実が図られているが、小中の連続性を意識した取組をより一層推進していく必要がある。また、オ、カでは、適切な実態把握と改善策、個に応じた指導が充実してきており、さらには、学校と家庭との連携、家庭学習の習慣化など、学力向上プランに沿って工夫した取組が見られた。					

（4）道徳教育の充実

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	道徳教育推進教師を中心とした全体計画・年間指導計画等の充実	**3.42**	44.4%	53.0%	2.6%	0.0%
イ	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進	**3.42**	44.1%	53.4%	2.5%	0.0%
ウ	「考え・議論する」道徳科への転換に向けた指導の工夫	3.34	38.7%	56.3%	5.0%	0.0%
エ	豊かな体験活動等を生かした多様な取組の推進	3.39	42.3%	53.8%	3.8%	0.0%
オ	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実	**3.43**	44.6%	53.1%	2.3%	0.0%

考察	どの項目もほぼ昨年度同様の結果であった。 各学校で「考え・議論する」道徳科の授業に向けた研修がなされ、授業改善につながっている。小学校においては評価の研修も進められた。中学校でも、ローテーション道徳、担任外の授業など、学校全体で行う道徳科の授業づくりが進められた。今後も、さらなる授業改善に向け、実践的な研修、授業研究会等の積み重ねが求められる。また、幼稚園では、地域と連携した体験活動や、身の回りの動植物と触れ合う機会を大切にした活動が多く行われている。

(5)生徒指導の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	いじめ防止基本方針を踏まえた未然防止・早期発見・適切な対応・認知と解消の徹底と併せて、児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	**3.65**	64.4%	35.6%	0.0%	0.0%
イ	不登校の未然防止や別室登校などの初期対応の徹底と教育相談活動の充実	**3.65**	66.2%	32.3%	1.5%	0.0%
ウ	問題行動等の未然防止と適切な対応の徹底	**3.63**	62.3%	37.7%	0.0%	0.0%
エ	インターネットの利用にかかわるトラブルを防ぐ情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進	3.31	36.9%	56.9%	6.2%	0.0%
オ	自己有用感や自己決定力を高める積極的な生徒指導の充実	**3.46**	46.2%	53.1%	0.8%	0.0%

考察	昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価が得られた。管理職や生徒指導主事・主任を中心とし、情報共有や組織的な対応、意図的・継続的な取組などが見られた。 ア、イ、ウについては、評価平均が高いことと共に「４」の割合が高く、各学校園で適切な対応や充実した取組が行われたと言える。不登校の問題に対しても、各学校ともに家庭や関係機関と連携し根気よく対応しており、改善が見られたケースも挙げられている。一方、エについては、昨年度と同様に評価平均が3.31で、自由記述にも課題が挙げられた。特に、家庭への啓発については、各学校園ともに継続して取り組んでいるが、成果が出にくいのが現状である。児童生徒への指導と家庭への啓発について、より工夫した取組が求められる。

(6)社会の変化に対応する教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	意図的・計画的にキャリア教育の視点を関連付けた学校教育活動の推進	3.14	22.3%	68.5%	9.2%	0.0%
イ	環境教育の視点を踏まえた体験的活動の実施と各教科等における指導の継続	3.17	24.6%	67.7%	7.7%	0.0%
ウ	社会のグローバル化に対応するため、国際理解教育の視点を踏まえた意図的な交流の場の設定や、各教科等における異文化理解につながる指導の推進	2.90	12.4%	65.1%	22.5%	0.0%
エ	体験的な学習活動やボランティア活動を通して、互いに協力し合おうとする態度の育成を目指した福祉教育の推進	3.38	41.9%	54.3%	3.9%	0.8%
オ(ア)	郷土の豊かな自然、先人たちが築いた歴史や文化に触れ、郷土愛をはぐくみながら地域を誇りに思う教育の推進「沼田大好き！ふるさと学習」	**3.42**	47.3%	46.5%	6.2%	0.0%
オ(イ)	沼田市三大文学賞(「柳波賞」「おのちゅうこう『ふるさと文学賞』」「全国ふきわれ俳句大会」)への積極的な参加「沼田大好き！ふるさと学習」	**3.61**	65.3%	30.5%	4.2%	0.0%
カ	子どもの情報活用能力の育成を図るための、各教科等におけるコンピュータ等を適切に活用した学習活動の充実	3.14	26.3%	61.9%	11.9%	0.0%

考察	ほぼ昨年度と同様の結果であった。 ア、イについては、各教科や総合的な学習の時間等で、意図的・計画的に指導できるよう、引き続き、教育課程や全体計画の見直しが必要である。また、ウ、カについては新規項目である。ウでは、国際理解教育の視点をより明確にして各学校の取組を推進していく必要がある。カでは、積極的に活用しているものの、各学校で差が見られる。今後も、効果的な活用について研修が求められる。オについては、例年同様高い評価が得られた。

（7）健康・体力・安全に係る指導の充実

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実	**3.66**	65.9%	34.1%	0.0%	0.0%
イ	栄養教諭等を活用した食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育の充実	3.35	41.9%	51.9%	6.2%	0.0%
ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	**3.57**	57.5%	41.7%	0.8%	0.0%
エ	中学校における部活動の適切な指導の実施と効果的な休業日の設定	**3.61**	62.7%	35.6%	1.7%	0.0%
オ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	**3.43**	46.5%	50.4%	3.1%	0.0%
考察	どの項目でも昨年度同様高い評価となっている。各校園において、養護教諭、体育主任、安全主任等が主となり、指導の充実が図られている。 アでは、学校保健委員会の活動を中心にして、家庭と連携を図りながら健康養育を推進している。イについては、栄養教諭が配置されている学校とされていない学校とでは、取組に差が見られるが、積極的な活用が進められている。幼稚園では、栄養教諭による保護者向けの講演会を行うなど工夫が見られた。ウでは、体力向上プランを活用して学校全体で取り組むことができた。より一層の充実のために、小学校６年間を見通した計画や小中の連携を進めることが求められる。オでは、各種の避難訓練について、昨年度までの反省や課題を生かして工夫改善が図られている。引き続き、学校行事だけではなく、危険予測学習など、授業での指導と行事を連携させていくことで、より実効的な安全教育の推進が求められる。					

（8）特別支援教育の充実

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	特別支援コーディネーターを中心とした校内特別支援体制の強化と交流及び共同学習の推進	**3.55**	58.5%	38.1%	3.4%	0.0%
イ	個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた中・長期的な支援の充実	**3.45**	49.6%	46.5%	3.1%	0.8%
ウ	関係機関と連携した気になる子どもへの適切な対応の推進	**3.68**	69.2%	29.2%	1.5%	0.0%
考察	昨年度より、全ての項目で評価平均値が上昇しており、各学校園で特別支援教育の充実が図られたと言える。 学校園全体で組織的に対応したり、全教職員が共通理解したりすることで、充実が図られている。特別支援教育コーディネーターが中心となって、校内支援委員会での協議、検討事項の焦点化、支援員の活用、指導（支援）計画の改善など、年々推進されてきている。課題を感じている学校もあるため、引き続き、校内特別支援体制を整理したり、研修を進めたりする必要がある。また、専門アドバイザーや専門相談員等、各種支援機関との連携を行い、適切な支援や対応について進めていくことで、よりよい支援が可能になったという意見が多く挙げられた。幼稚園においても、コンサルテーションを定期的に行い、保健師や心理士等との連携が進んでいる。小学校への指導の引き継ぎについて、より丁寧に進めていくことが求められる。					

（9）人権教育の充実

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	「沼田市人権教育推進方針」に基づく教育活動全体を通した組織的な人権教育の確立	3.35	37.2%	61.2%	1.6%	0.0%
イ	教職員の人権意識の高揚と人権教育に関する指導力の向上	3.33	36.4%	59.7%	3.9%	0.0%
ウ	学校教育及び社会教育、家庭教育の連携による人権教育の推進と啓発活動の充実	3.24	27.9%	68.2%	3.9%	0.0%
考察	イの教職員の人権意識の高揚と人権教育に関する指導については、研修の必要性が挙げられた。校内研修などで取り上げ、研修を進めることが求められる。ウでは、人権擁護委員会や社会福祉事務所等との連携、家庭教育への啓発などの取組が挙げられている。今後も、人権教育全体計画を基に、人権週間での取組、道徳科や学級活動を主とした指導の充実が求められる。					

(10)読書活動の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学校や家庭における本との出会いの創出や読書習慣づくりの推進及び豊かな心と確かな学力を支える読書活動の充実「家族で本を読みましょう」	3.25	38.8%	48.1%	13.2%	0.0%
イ	図書資料を利活用した学習活動を充実させるための学校図書館の環境整備と沼田市立図書館との連携	3.10	28.9%	53.1%	16.4%	1.6%
考察	アについては、各学校ともに工夫した取組を進めている。特に、図書委員会の活動と関連付けた家庭への啓発、図書だよりの発行、読書ノーメディアデーなど、家庭との連携を図るための取組を工夫している学校が多い。家庭での意識の差もあり、まだ課題があるが、継続して進めていくことが必要である。イについては、移動図書の活用、団体貸出の利用などの取組が挙げられた。図書室の環境整備については、沼田市立図書館と連携した取組が進めていく必要がある。幼稚園においては、市立図書館からの絵本の貸出の利用、絵本の部屋の充実など取り組んでおり、家庭との連携も積極的に進めている。					

(11)教育研究所の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	11次沼田市教育水準向上研究の具現化を目指した教師の資質向上に資するための実践的な班別研究の推進	**3.50**	50.9%	47.3%	1.8%	0.0%
イ	不登校や学校不適応等の課題をもつ子どもやその保護者に対して、教育相談を行うなど教育研究所と連携した適切な対応の推進	3.31	39.4%	50.7%	9.9%	0.0%
ウ	「適応指導教室(きずな)」・「ことばの教室」に通室する子どもの状況の適切な把握と、改善に向けた指導・支援の充実	**3.40**	51.4%	36.1%	12.5%	0.0%
考察	今年度から評価の観点を一新した。アでは、所員・研究員の在籍校では、資質向上に役立ったという意見があった。また、昨年度の実践が今年度の教育活動に生かすことができたという意見もあり、充実した班別研究が推進されている。適応指導教室や言葉の教室に通室する子どもたちに対しては、情報交換が密にでき、適切な指導・支援につがっている。また、ＪＳＡの活用なども積極的に行うことで成果も出ており、今後も、各校園が教育研究所と連携していくことが求められる。					

第２章　第１１次沼田市教育水準向上研究（第３年次）の成果と課題

１　評価結果

領域	No.	学校教育の重点	評価平均	評価の割合			
				4	3	2	1
確かな学力	ア	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、それを偏りなく伸ばすことができる単元の指導計画の重視	3.30	30.5%	68.6%	0.8%	0.0%
	イ	授業のめあての明示と振り返りの時間の確実な実施に併せて、それらをつなぐための学習活動の精選	**3.54**	54.2%	44.9%	0.8%	0.0%
	ウ	問題解決的な学習展開の中に、社会や生活とのつながりを持たせた視点を明確にした指導の工夫	3.24	25.4%	72.9%	1.7%	0.0%
豊かな心	エ	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進	**3.42**	44.1%	53.4%	2.5%	0.0%
	オ	「考え・議論する」道徳科への転換に向けた指導の工夫	3.34	38.7%	56.3%	5.0%	0.0%
	カ	自己有用感や自己決定力を高める積極的な生徒指導の充実	**3.46**	46.2%	53.1%	0.8%	0.0%
健やかな体	キ	子どもの心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実	**3.66**	65.9%	34.1%	0.0%	0.0%
	ク	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	**3.57**	57.5%	41.7%	0.8%	0.0%
	ケ	子どもの危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	**3.43**	46.5%	50.4%	3.1%	0.0%

２　結果の考察

（1）確かな学力

今年度、単元の指導計画について重視してきた。校内研修で取り上げた学校も多く、単元を通して、何を身に付けるのか、どのように学んでいくかについて研修を進めることができた。イのめあてと振り返りの確実な実施、学習内容の精選とも関連して、今後も授業改善を進める上で大切にしたい視点である。引き続き、単元づくりと１時間の授業づくりについて、研修を進めていく必要がある。ウについては、カリキュラムマネジメントの視点から計画を見直したり、指導の工夫を図ったりするなど、より改善を図る必要がある。また、今後は、家庭学習の習慣化や学習の仕方など、学力向上に向けた家庭との連携もより進めていく必要がある。

（2）豊かな心

各学校で「考え・議論する」道徳科の授業に向けた研修がなされ、授業改善につながっている。小学校においては評価の研修も進められた。中学校でも、ローテーション道徳、担任外の授業など、学校全体で行う道徳科の授業づくりが進められた。今後も、さらなる授業改善に向け、実践的な研修、授業研究会等の積み重ねが求められる。また、幼稚園では、地域と連携した体験活動や、身の回りの動植物と触れ合う機会を大切にした活動が多く行われている。カは引き続き評価が高い。児童生徒主体の活動を多く取り入れたり、教育相談の充実により個別の状況に応じた支援を進めたりしている。学校園全体での情報共有や組織的な対応についても意識が高く、効果的である。

（3）健やかな体

どの項目でも昨年度同様高い評価となっている。各校園において、養護教諭、体育主任、安全主任等が主となり、指導の充実が図られている。キでは、学校保健委員会の活動を中心にして、家庭と連携を図りながら健康養育を推進している。クでは、体力向上プランを活用して学校全体で取り組むことができた。より一層の充実のために、小学校６年間を見通した計画や小中の連携を進めることが求められる。ケでは、各種の避難訓練について、昨年度までの反省や課題を生かして工夫改善が図られている。引き続き、学校行事だけではなく、危険予測学習など、授業での指導と行事を連携させていくことで、より実効的な安全教育の推進が求められる。

令和元年度の研究指定等

指定・委託元及び年度	事業名	学校名等
平成３０～令和元年度 群馬県教育委員会	ぐんまの子どもの体力向上推進事業	沼田南中学校
令和元～２年度 群馬県教育委員会	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	沼田南中学校
令和元～２年度 群馬県教育委員会	総合的に学力向上を図る学校への支援事業	川田小学校

編　集　後　記

本年度も、多くの皆様に御協力いただき、本研究紀要を完成させることができました。

各研究部会の取組、幼稚園・小中学校の校内（園内）研修や教育水準向上授業研究会等の成果について改めて拝見すると、先生方が日々研鑽に励み、子どもたちのために力を注がれている様子がよく伝わってまいります。本年度は第１１次沼田市教育水準向上研究の最終年次でしたが、本研究の主題である「自ら学び共に考え、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」に向けて、沼田市の先生方で学校教育の重点を共有し、一丸となって取り組むことができました。各学校園での取組には多くの工夫が見られ、子どもたちと真摯に向き合った日々の実践が成果として表れています。

また、上記のように本年度も研究指定等の事業が行われ、目指す子どもの育成に向けて、学校全体で様々な取組が実践されました。授業を参観させていただくと、そこには生き生きと勉強や運動に取り組み、考えを伝え合いながらよりよく問題を解決しようとする子どもたちの姿がありました。これはひとえに、学びを支える先生方の御尽力の賜物だと感じております。これからも激動の世の中の未来を見据え、沼田の子どもたちに確かな力を付け、伸ばしていただきますようお願いいたします。

結びに、研究の主体となって熱心に取り組まれた各幼稚園・小中学校の皆様、研究計画の作成・評価に貴重な御意見をくださった研究推進委員会の方々、御指導・御協力いただきました利根教育事務所をはじめとする関係各方面の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げ、編集のまとめといたします。

令和２年３月　吉日
沼田市教育委員会
指導主事　冨澤　誠司

＊本冊子は、沼田市 Web ページに公開しています。URL（http://www.city.numata.gunma.jp/）